

## 巻/頭/言

## 暮らしと設備を支える技術の特集号に寄せて

Foreword to Special Issue on Technologies of Living &amp; Facility

永友秀明

Hideaki Nagatomo



低炭素社会の実現、高齢化社会への対応など、社会全体が抱える大きな課題と向き合いながら、一人ひとりの暮らしのクオリティを高め、心も体も豊かで健康で幸せにあふれた生活を実現することを目指し、三菱電機では暮らしの本質を見つめた新しいものづくりへの挑戦を続けています。

この特集号では、家庭向けからオフィス・店舗などの業務用機器や産業用に至る幅広い製品を対象に、工夫の積み重ねによって向上を図っている省エネルギー化技術を中心にしながら、利用者の負担の削減や、使い勝手の向上など、安心そして快適に使い続けていただくことを目標に開発した製品やキーパーツについて紹介します。

当社が得意としている空調冷熱機器では、日本をはじめ世界の各地域で省エネルギーに関する規制が強化され続けています。当社は、再生エネルギーのより効率的な活用を目指し、圧縮機、熱交換器、ファン、モーターといったキーパーツから、ルームエアコンのような高度に技術が融合した製品や、複数の空調冷熱機器を統合的に扱う運用管理システムにいたるまで、様々な製品分野でトップレベルの省エネルギー性能を達成し続けることを目指しています。例えば、空調機器の心臓部とも言える圧縮機では、ツインロータリ圧縮機の圧縮機構部の新たな組立工法を開発することで、画期的な行程容積の拡大を図り、省資源化・省エネルギー化とともに、ダウンサイジングという新たな価値も実現しています。また、国内では当社が圧倒的なシェアを誇る換気扇でも、モーターのDC化及びラインアップ化を図り、次世代の省エネルギー基準に対応していきます。新たな視点では、近年海外で注目が高まりつつある地中熱を利用したヒートポンプシステムです。これは地下のみならず、地表面や川などの熱を利用する技術で、当社も海外市場向け製品“Brine to Water Heat Pump”で高い期間効率を実現しています。

家庭におけるエネルギー利用の合理化の視点では、“三

菱HEMS(Home Energy Management System)”を2013年12月に発売しています。この特集号でも紹介している当社製のエアコン、テレビ、冷蔵庫、給湯機といった家電製品・住宅設備機器をかきこくつないで、エネルギー利用の合理化を図りつつ、今まで体験したことがないようなより快適で健康的な生活環境の提供を目指しています。

生活者により身近な製品群では、様々な負担を減らし、健康的で楽しい気持ちで毎日が過ごせるように、そんな思いをこめて新しい技術を開発し、製品に適用しています。例えば冷蔵庫では、食品の整理・管理の課題に着目し、省スペースで業界最大容量となる容量拡大に加え、肉・魚を凍らせずに保存することで食品本来のおいしさを保つ“氷点下保存”の技術を確立しています。また掃除機では、グリップハンドルの形状を工夫することによって、少しでも楽な姿勢で掃除ができるよう配慮しました。日々の入浴に欠かせない給湯機では、手の届かない配管内部を清潔に保つ技術であるマイクロバブルの増量化で洗浄力を高め、配管掃除の負担軽減や、入浴時の快適感を高めるなど、健康志向の欲求の高まりに応える製品としています。

このように、より高いレベルの省エネルギー性能の実現から利用者の使い勝手にいたるまで、当社の幅広い技術を活用して暮らしや設備をこれからも支え続けます。そして、これらの技術や製品をもっとよく知っていただき、利用していただきたいとの思いから、当社ブランドロゴの国内外統一に合わせて、BtoC(Business to Consumer)製品で広告宣伝活動を中心に積極的なアピールを進めています。生活者一人ひとりに対し、同じ目線に立って課題の解決に取り組む姿勢や期待を超えた価値を提供したいとの思いから、“すごい”“いいね”さえも超えた感情を表現する“ニクイねえ!”を国内統一宣伝キャッチフレーズとして広告宣伝でアピールし、当社ブランド価値の大幅な向上を目指してまいります。これからの当社の取組みに大いに期待您的。